
六本木アートナイト 2019 [外国語対応企画]

報告書



六本木アートナイト実行委員会



六本木アートナイト2019 外国語ガイドレクチャー “Speakeasy at Roppongi Art Night 2019”実施報告書

1. 企画概要

〈企画タイトル〉 Speakeasy at Roppongi Art Night 2019

〈開催概要〉

2019年5月25日・26日に実施された六本木アートナイト2019のメインイベントにおいて、環境整備の一環として多言語対応企画を実施した。昨年度(=2018年度)より、外国人来場者を対象とした取組を開始し、今年度は、六本木アートナイトをより楽しむための、英語を用いたレクチャーを開催したほか、英語、中国語、韓国語を話せるスタッフが常駐するインフォメーションとしての機能と休憩所を用意した。昨年度に引き続き、アート専門の通訳・翻訳と、それに特化した企画の運営等を行う Art Translators Collective に企画・運営を委託した。

〈会場〉 六本木ヒルズ ノースタワー1F

〈開催期間〉 2019年5月25日(土)17時～23時、5月26日(日)10時～16時

※レクチャーは、毎時0分から行い、各回約15～20分程度で全12回実施した。それ以外の開催時間中は、翻訳スタッフが常駐した。

5月25日(土)

17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 23:00



ガイドレクチャー実施

5月26日(日)

10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00



英語・中国語・韓国語を話せるスタッフが
常駐するインフォメーション／休憩所

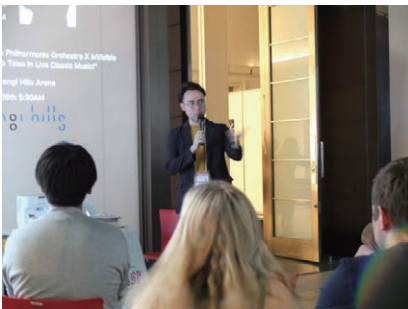
〈目的〉

- ・ 六本木アートナイトの魅力をより多くの人々に知ってもらう。
- ・ インバウンドの観光客と日本在住の外国人どちらも対象とし、六本木アートナイトを通じて六本木の街や日本のアートについて理解を深めてもらい、親しみを持ってもらう。
- ・ 外国人来場者のニーズを把握することで今後の六本木アートナイトの外国語対応、多言語対応の充実を図る。

2. 開催詳細

●ガイドレクチャー

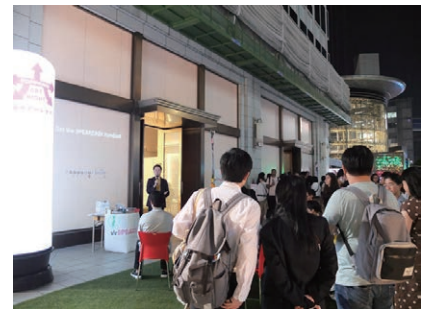
- ・ガイドレクチャーは、イベント実施時の毎時0分から各回15～20分程度で開催し、主に英語を用いて説明を行ったが、回ごとのニーズを踏まえ日本語を交えながら、全12回開催した。
- ・「六本木アートナイトとは何か」といった基本的な六本木アートナイトの概要から、六本木の街の歴史など、六本木アートナイトをより深く楽しんでもらうためのポイントとなる情報を伝えた。
- ・各回のレクチャーの後に観ることができる作品やイベント、パフォーマンスなどを中心に、日時に合わせて作品の紹介内容をアレンジした。
- ・「田植え（西原尚『おひまち』のコンセプト）」や「ラジオ体操（日本フィルハーモニー交響楽団×インビジュアル『クラシックなラジオ体操』）」、「六本木」という街の名前の由来など、六本木アートナイトと関係する内容の中から日本文化に関わるトピックを抽出し、作品やイベントをより深く理解し楽しめるように日本の文化的背景や街の歴史等を解説した。
- ・5月25日（土）22時の回は、六本木ヒルズノースタワー1Fで作品を展示していたアーティストの田中誠人氏に飛び入りでレクチャーに参加していただいたことで、インタビュー形式で自身の作品の話や、作家活動について語ってもらう機会となった。



5/25（土）20時、レクチャーの様子



5/25（土）21時、レクチャーの様子



5/25（土）田中誠人氏による作品説明

●英語・中国語・韓国語を話せるスタッフが常駐するインフォメーション／休憩所

- ・ガイドレクチャーを実施していない時間では、アートに特化した翻訳を得意とする、英語2～3名・中国語1名・韓国語1名のスタッフが常駐するインフォメーションとしての場を設え、来場者からの問い合わせに対応した。
- ・言葉が通じないことで不安に陥る感覚を払拭できるように、翻訳スタッフは、単なる情報伝達にとどまらず、作品の感想を来場者と述べ合うなどし、親身にコミュニケーションをとることに努めた。
- ・訪日外国人向けに、Wi-Fiの設置を行った。



5/26（日）来場者への案内



5/26(日)休憩所としての会場内

●六本木の街のサーチ／ハンドアウトの作成・配布

- ・ 事前に六本木商店街振興組合に協力を仰ぎ、六本木の街の歴史的背景や、街の文化的な特徴に関してヒアリングを行った。六本木の地形的特徴、戦後の街の成り立ちから現在につながる街の文化的な特徴を英語で配布テキストにまとめ、本企画の会場で配布した。
- ・ 六本木アートナイト2019の出展作品のうち、作品の背景にある日本文化を知ること、作品鑑賞の一助となるような作品解説を記載した。(例えば「ラジオ体操」についてなど) QRコードを掲載することで、英語版Webサイトの該当作品のページにリンクできるよう工夫した。

SPEAKEASY

at Roppongi Art Night 2019

History of Roppongi's international background!

Roppongi is where the new meets the old, the traditional meets the modern. It is a unique tapestry of Tokyo's international qualities. One quickly comes to realize that what makes Roppongi thrive is its local community and their openness to change.

But until the late 1800's, the area had a rather official and serious atmosphere, since Roppongi was a popular **high-ground location for samurai** who sought to display their wealth and power by building huge mansions with a view. The powerful lived high up in the hills, and the ordinary lived down below.

After modernization, having large plots of land in a concentrated area made Roppongi fit for **large scale redevelopment**. The former estates were appropriated into military facilities of the Imperial Army, which were later used by the United States military under Occupied Japan. Some of the estates became home to foreign governments embassies in the area. In post-war Japan, Roppongi became one of the first areas to host a large foreign population, encouraging western style restaurants and cafes to open businesses. **The first pizza parlor and the first burger stand** in Japan opened in Roppongi (in 1954 and 1950, respectively). In the 80s to 90s, with many TV networks and studios nearby, Roppongi was a **popular hangout for celebrities** of the time, and soon became an attraction for young people as a **hub of new, cutting-edge culture** to this day.

Commemoration Gate, Roppongi-Azabu area, 1928.
©Minato City Local History Museum

It's a huge hill

To understand Roppongi's geography, the easiest way is to see it as a huge hill, with multiple slopes (*saka* or *zaka* in Japanese) reaching down towards each direction. Heading down the **Nogi-zaka** hill north takes you near the Imperial palace, the **Ichimi-zaka** hill to the east leads to Toranomon area, and **Imoarai-zaka** and **Torii-zaka** hills to the south will take you to Azabu area.

You can look for those post signs that indicate the names of slopes!

Dance till dawn

Roppongi is home to many clubs, but even if you are not a party king/queen, you can enjoy dances and performances inspired by traditional Japanese culture:

- The **Bon-Odori** is a dance for the Japanese summer-festival, **Bon**, where the dead come back to visit the living. The **Bon-Odori** is a communal dance where the living (and sometimes the dead) gather in a circle, and repeat a simple choreography in unison.
- The **Radio Taiko** (Radio exercise) is an exercise routine taught to any child who attends Japanese schools. The exercise is aired on television and radio every morning, and it is a popular activity for people to gather in parks or workplaces to do the exercise together.
- Ohimachi** (wait for the sunrise) is the name of a traditional festival in agricultural areas, in which farmers, after planting or harvesting rice, wait for the sunrise by celebrating all-night long.

There is a prestigious Christian girls' school in the heart of busy area surrounded by restaurants, bars and clubs!

It's said that six large trees used to mark the area, that is why the town is called Roppongi (the six trees).

A quick walk into one of the alleys will quickly lead you to see the other persona of this city. **Ryudo-cho** is a labyrinth of old housing and local businesses that have been around for 100 years or more.

It is often overlooked that there are many temples and shrines in Roppongi. **Tensho Shrine** dates to 1304. There is a legend that a dragon (*ryu*) used to fly from Edo Bay to this shrine every night to light a candle, that is why it's also called **Ryudo Shimmei-gu** (dragon light shrine). See also:

Radio Taiko 2018
Photo: Hajime Kato

Multi-Lingual Guidance and Talks "Speakeasy at Roppongi Art Night 2019"
Supported by: Art Translators Collective (Kazuko Tanaka, Kyô Yamada)

3. 振り返り

〈運営メンバーからの所感〉

- ・ガイドレクチャーは、熱心に聞いて行く人もいれば通りすがりに聞いて行く人もいて、そのカジュアルさが好評だった。
- ・日本語でもガイドレクチャーを聞きたいという声が多かった。
- ・外国人来場者に対し、対面コミュニケーションを通じて情報を提供できたことは、外国人来場者への対応も準備されているという印象を与え、翻訳スタッフが直接話をするのが来場者の満足度アップにつながったと感じる。
- ・細かいニーズや質問(「特定の作品が見たいが、場所がわからない」、「このイベントは何時からどこであるのか」など)に多言語で対応できたことで、多くの情報が日本語であることの不安やストレスを解消できたのではないかな。
- ・作品の説明は、スタッフの「オススメ」を尋ねられる場面が多かった。
- ・中国語・韓国語の来場者は想定より圧倒的に少なかった。運営スタッフが対応したのは、実施期間で数名であった。
- ・5月25日(土)の実施時間中は、会場周辺が大変な混雑だったため、本企画に立ち寄ってガイドレクチャーを聞いて行く方も多かった。夜にかけて行われるイベントを案内しやすかった。
- ・休憩所として利用できる場所は、外国人以外にも重宝され、Wi-Fiの設置や、5月とはいえ、30度近くまで気温が上昇したことで、エアコンがある場所として子供連れなどにも喜ばれた。

〈反省と今後の改善に向けて〉

◎会場

- ・会場となった屋内スペースが、作品設置の関係で照明が暗く、外から見えにくくなってしまっていた。どのような機能を持った場所なのかのかわかりにくかったので、入るのに躊躇する来場者が多かった。
- ・六本木アートナイト2019のメインインフォメーション(ラピロス六本木とヒルズカフェ/スペース)で外国語ガイドレクチャーについて案内していたが、インフォメーションからインフォメーションへと渡る導線となったのは好ましくなかった。
- ・外国語対応のための特別な場所をつくるのではなく、広場やメインのインフォメーションのように、自然と人が集まるところに外国語対応コーナーがあるほうが利用しやすいのではないかな。

◎企画内容

- ・配布テキストは、「六本木の歴史やトリビアが書いてある」と説明すると興味を持って手に取る方が多かったが、基本的には、「手荷物を増やしたくない」という考えの外国の方が多かったため、今後このようなコンテンツを制作する場合は、どのような形態のものにすべきか、検討が必要だ。
- ・ガイドレクチャーや、スタッフとの対話、配布テキストといった本企画のコンテンツを体験してから、六本木アートナイト2019を巡った際の効果をはかることができなかったため、今後は適切な効果測定ができると望ましい。

◎言語

- ・中国語・韓国語の来場者が想定よりも少なかったことから、中国語・韓国語利用者を増やすことを今後の課題にする場合は、告知や情報発信の時点で両言語での発信に力を入れる必要があるのではないか。

◎実施期間

- ・5月26日(日)は、何を見たいか決まっているなど、目的がはっきりした来場者が多かった。ガイドレクチャーに興味を持っていただいてもコアタイム以降のあまりイベント等の実施が多くない時間帯については、案内する際により工夫が必要だった。
- ・また、特に5月26日(日)は、海外からの来場者が少なく、本企画のような形態で実施する場合は、実施期間の設定をコアタイムに集中させた方が、需要があるのではないか。また、日曜日の本企画内容は、来場者の層に合わせ対応を工夫する必要があるだろう。

〈参加人数〉

2日間の総数：レクチャー参加者数179人、全体利用者数648人

※全体利用者数：レクチャー、インフォメーション、休憩所としてのいずれかの利用の総数

5月25日(土)	参加者数	全体利用者数
17時～	16	69
18時～	23	78
19時～	14	55
20時～	19	58
21時～	26	63
22時～	25	58
合計	123人	381人

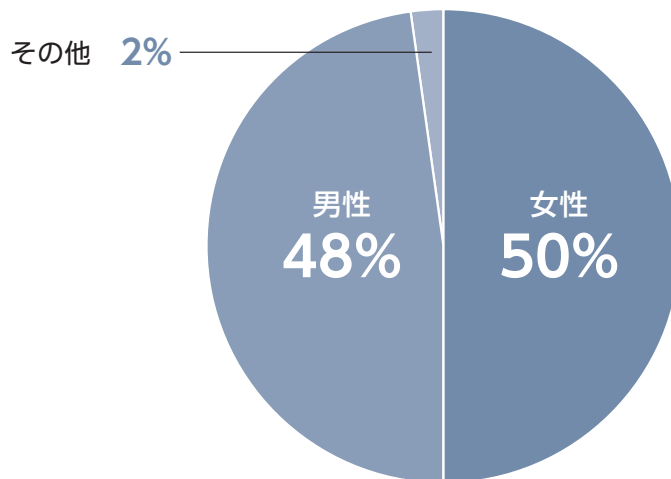
5月26日(日)	参加者数	全体利用者数
10時～	2	25
11時～	5	54
12時～	12	42
13時～	8	48
14時～	16	39
15時～	13	59
合計	56人	267人

〈アンケート結果〉

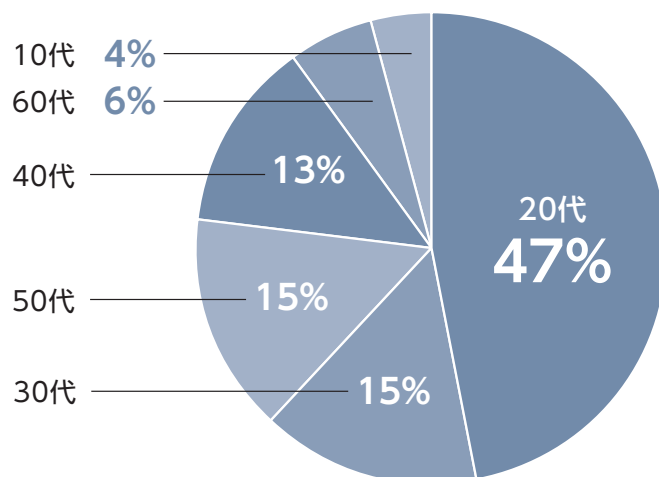
レクチャー参加者数：179名、回答者数：52名、回収率：29%

※レクチャーに参加した方のみ、アンケートを実施。

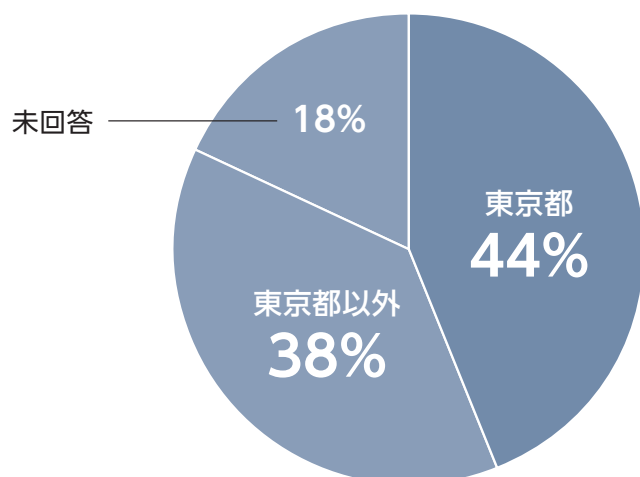
① 性別



② 年齢



③ 居住地



都内内訳

6 港区
1 練馬区
1 中野区
1 足立区
1 国分寺市
1 三鷹市
1 西東京市

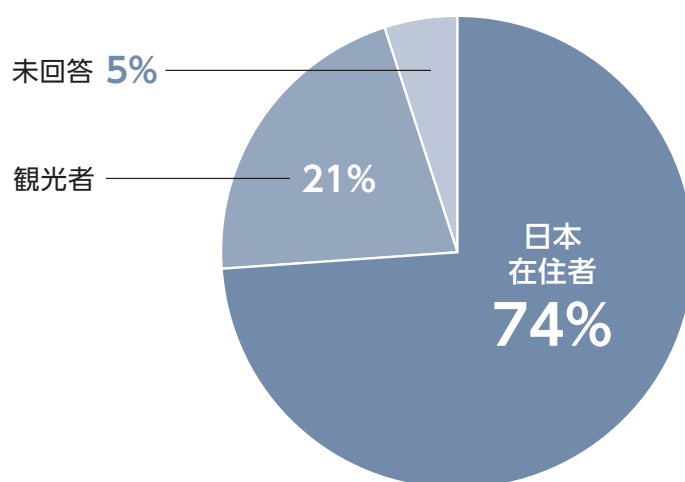
東京都以外

5 神奈川県
2 千葉県
2 埼玉県
2 大阪府
1 京都府

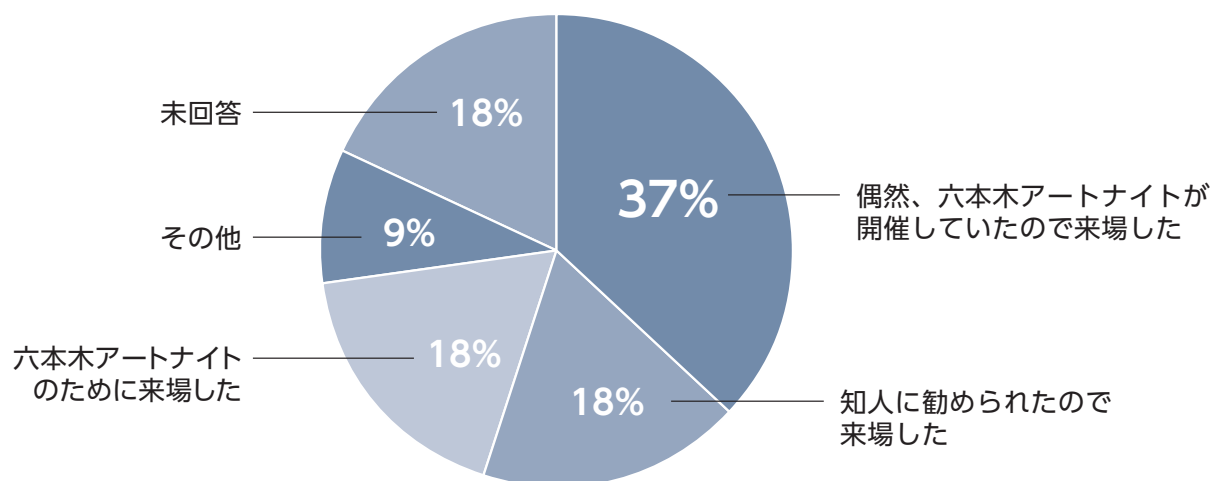
④ 出身国(全15カ国)

10 日本
5 台湾
4 中国
3 スペイン
3 イギリス
2 フランス
2 香港
2 アメリカ合衆国
2 オーストラリア
1 スリランカ
1 メキシコ
1 モロッコ
1 イタリア
1 インドネシア
1 シンガポール

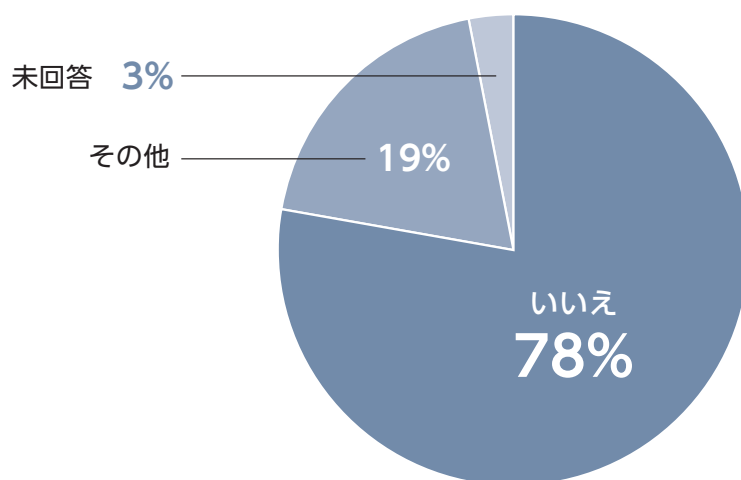
⑤ あなたは、日本在住者ですか、観光者ですか。



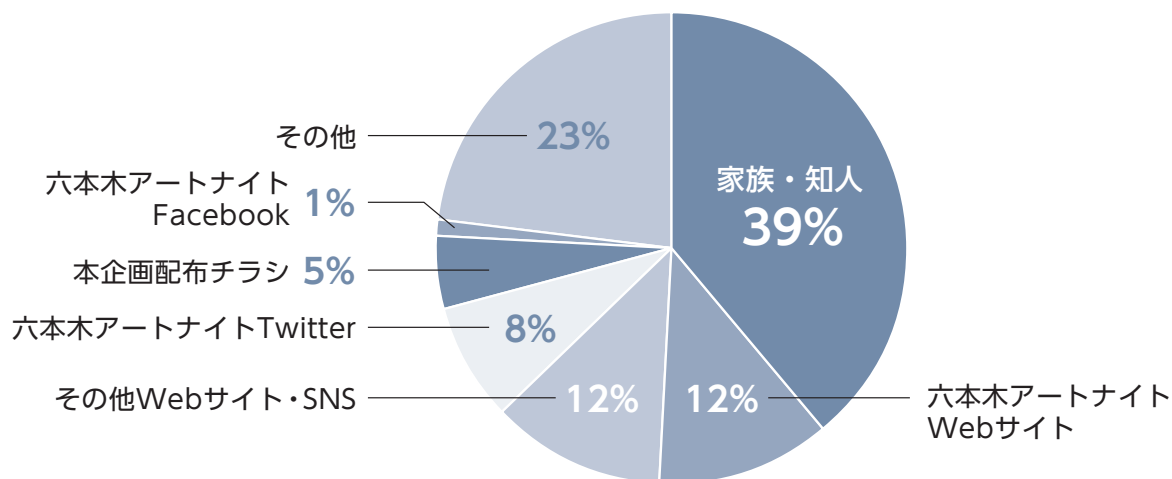
観光者と答えた方の来場理由



⑥ 六本木アートナイトに参加したことはありますか。



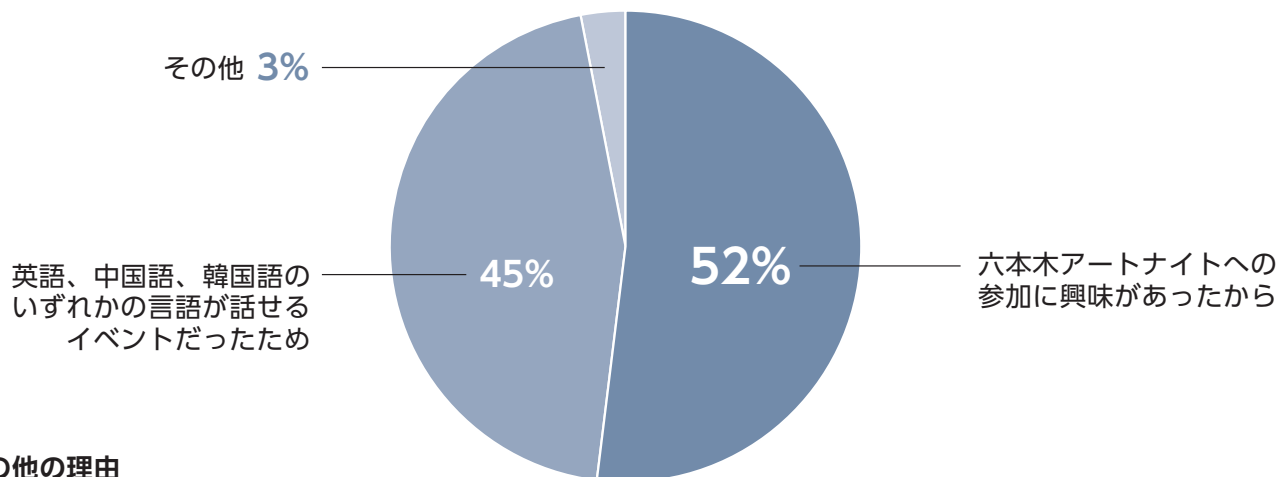
⑦ 本企画をどこでお知りになりましたか。



その他

- ・ TIME OUTを見た。
- ・ たまたま通りかかった。
- ・ 慶應義塾大学アート・センターのワークショップで案内された。
- ・ 六本木ヒルズのヒルズカード受付で知った。
- ・ Tokyo Art Beatを見た。

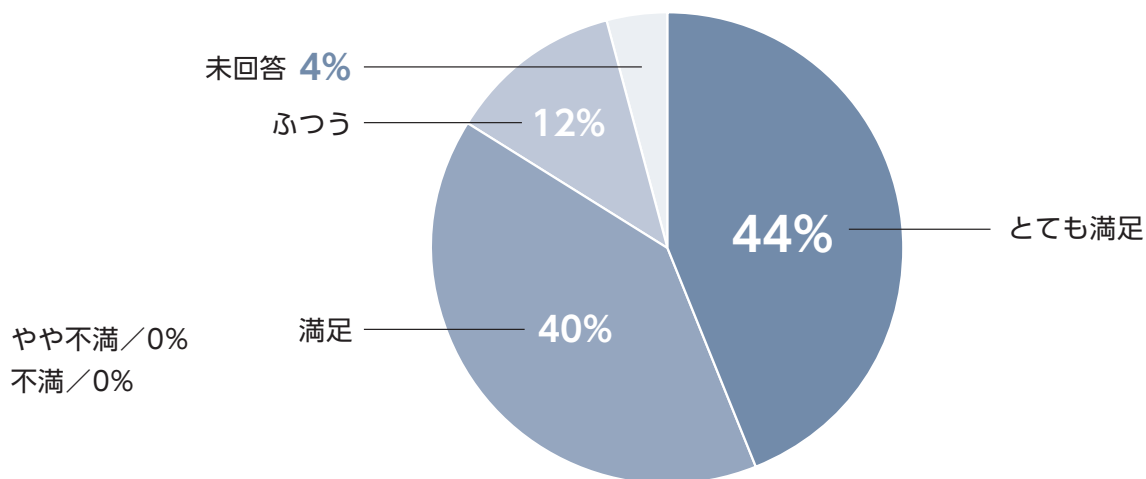
⑧ 本企画に参加しようと思った動機は何ですか。



その他の理由

- ・ 好奇心があったため。
- ・ より多くの情報を得たかったため。
- ・ 家族に言われたため。
- ・ ダンスやアートが大好きだから。
- ・ 作品理解に役立つから。

⑨ レクチャーについてはいかがでしたか。



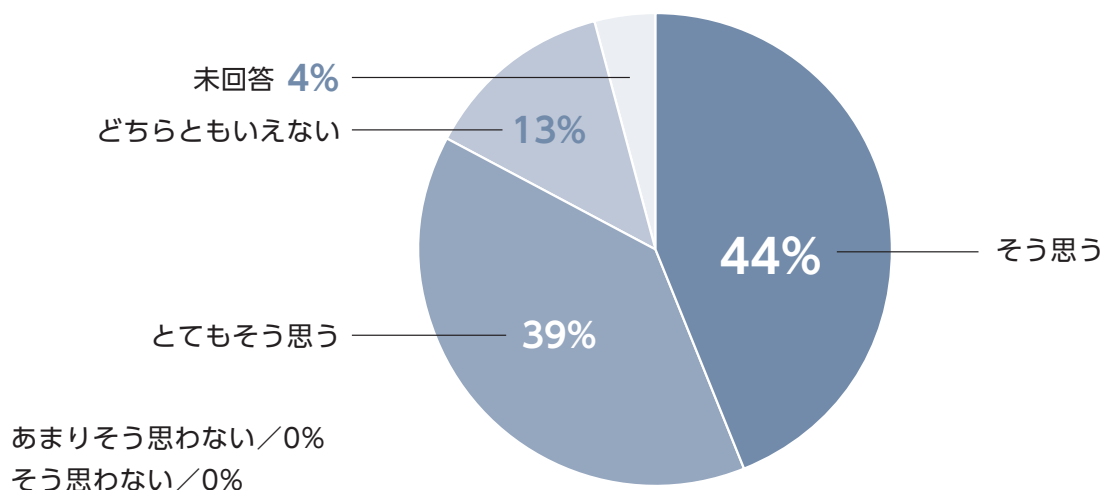
理由についてお聞かせください。

- ・たくさんの情報があったため。
- ・おもしろい解説だった。
- ・コンテンツの情報が多くあった。
- ・グローバルな視野がある。
- ・とてもよかった。

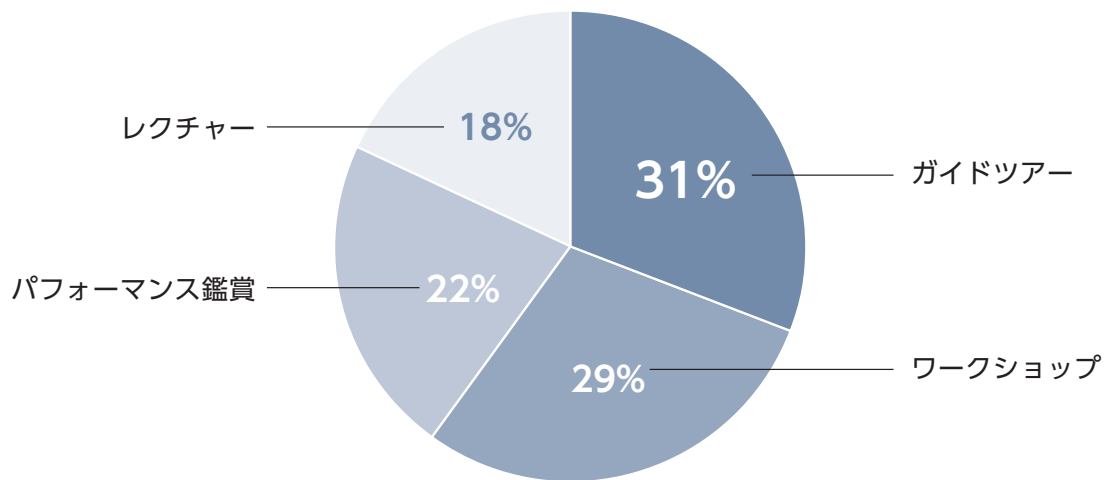
レクチャーの改善点についてご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・レクチャーは、より全体を俯瞰した内容で伝えることができたのではないかな。
- ・より簡潔にしてもいいのではないかな。
- ・すべてよかった。
- ・このような企画をやっているのを知らなかった。
- ・SNSのプロモーションをより積極的にやるべきではないかな。
- ・アーティストの作品の説明を聞くことで、作品の自由さや多様性を知り、観光客の自分にとって、冒険をしているような体験だった。

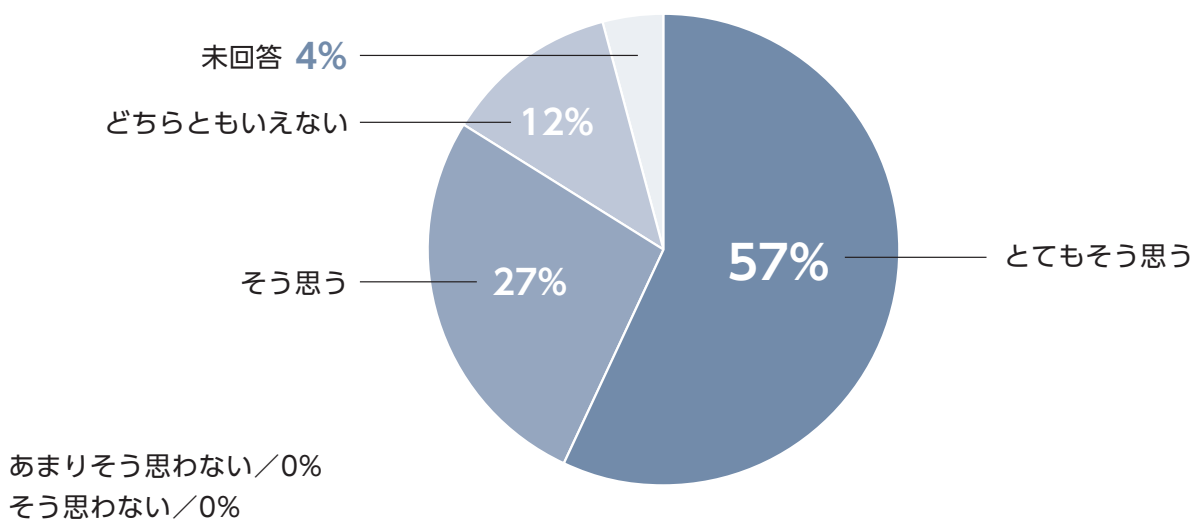
⑩ レクチャーを通じて、六本木アートナイトや鑑賞の背景となる日本文化について理解が深まりましたか。



⑪ 多言語の企画でどのようなプログラムに参加してみたいですか。(複数選択可)



⑫ 多言語の企画があれば、六本木アートナイトに再度来場したいと思いますか。



その他、自由に感想等をお聞かせください。

- ・アートは人々の結びつきをより強くするものであると感じることができた。
- ・参加できて楽しかったです。どうもありがとうございました。
- ・ガイドブックよりもより良かった。
- ・こんなイベント（本企画）があることを見つけたら、かなりすごいことだと思う。単なる観客だけではなく、さらに多くのひとを巻き込んでいけるといい。
- ・たまたま歩いていたら、アートがあたりして面白いイベントだと思った。ただ見るだけではなく、自分が参加できるのも良い。多言語のガイドがあるのはうれしい。英語が得意ではなく、外国人の友人に上手に説明できないので代わりに説明してくれるのはありがたい。ガイドブックも日本語版と同じような英語版をお願いしたい。

〈外国語ガイドレクチャー“Speakeasy at Roppongi Art Night 2019”企画者プロフィール〉

Art Translators Collective (アートトランスレーターズコレクティブ) は、2015 年に結成されたアート専門の通訳・翻訳およびそれに関連する企画の運営などを行う団体。アートの制作プロセスに総合的に関わることで、同時代を生きる当事者として表現者に寄り添い、単なる言葉の変換を超えた翻訳・通訳を通じて対話を実現していくことを目指し活動している。

<http://art-translators.com/>

田村かのこ (たむらかのこ・Art Translators Collective 主宰)

1985年東京都生まれ。アート・トランスレーター。タフツ大学工学部土木建築科(米国)、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科にてそれぞれ学位を取得後、通訳・翻訳、編集、広報など幅広く活動。2015年にアート専門の通訳・翻訳者の活動団体「Art Translators Collective」をメンバーと共に設立し、表現者に寄り添う翻訳・通訳の提供と新たな価値創造を試みる。2016年より東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻特任助教を兼任し、アーティストのためのコミュニケーション授業を担当。またディレクターチームに所属するNPO法人「芸術公社」では、コミュニケーション・プラットフォーム「read (レジデンス・東アジア・ダイアログ)」のトランスレーション・ディレクターとして、東アジアにおける対話のあり方を探っている。

六本木アートナイト2019

■開催日時：〈メインイベント〉 2019年5月25日(土) 10:00～5月26日(日)18:00

〈コアタイム〉 2019年5月25日(土) 18:00～5月26日(日) 6:00

■開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■主催：東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成：令和元年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業

六本木アートナイト2019 外国語対応企画 報告書

発行：六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL：<https://www.roppongiartnight.com/2019/>